道内各地で進展する地方創生プロジェクトの最前線をクローズアップ！

北海道創生ジャーナル 創る

Vol.26

2023.12

その先の、道へ。北海道
Hokkaido.Expanding Horizons.

CONTENTS

特集

01 地域の歴史的魅力や特色を地域活性化につなげる／日本遺産

江差町観光まちづくり協議会/石狩市・小樽市・函館市・松前町/大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会
炭鉄港推進協議会/鮭の聖地メナシネットワーク協議会/小樽市

05 地域が動く・プロジェクト最前線

■置戸町　温泉入浴施設「ゆぅゆ」を拠点とした観光振興
　～トレーラーハウスでアウトドア層の取り込みを～

07 知事が地域訪問する機会に地域で活躍されている方をお訪ねし、その様子を紹介
「なおみちカフェ」から　～地域創生のヒントを探る～

■釧路編　■根室編

09 地域に新たな風を吹き込む
地域おこし協力隊へのインタビュー

■ 白老町　羽地　夕夏さん
■ 岩見沢市　藤嶋　裕介さん

特集 日本遺産

地域の歴史的魅力や特色を地域活性化につなげる

日本遺産とは

「日本遺産」は、地域の有形・無形の文化・歴史のストーリーを文化庁が平成29年度より認定し、現在１０４件のストーリーが認定されています。

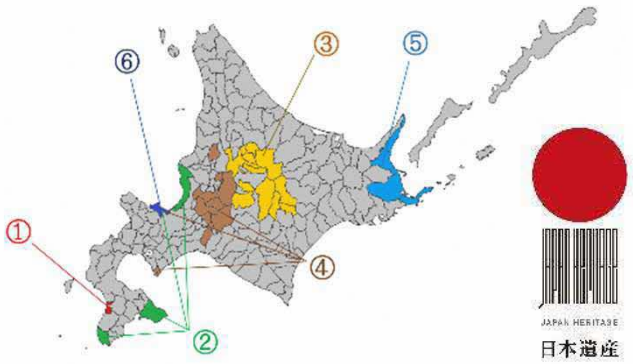
このストーリーの下、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内外に戦略的に発信していくことにより、文化財や伝統文化を通じた地域の活性化を図るものです。日本遺産に認定されると、当該地域の認知度が高まるとともに、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域のブランド化等にも貢献し、地方創生の取組にも資することが期待できます。

北海道の認定状況

北海道には、５箇所の認定地域と１箇所の認定候補地域（日本遺産として認定する候補となり得る地域）があります。

それぞれの地域では、関係者一同が参画した協議体を設置し、ストーリーの磨き上げを日々行っています。

北海道では、各協議会と連携し、体験型ＰＲイベントや関係者の研修会などを開催し、日本遺産の魅力、価値を伝える取組を行っています。



①江差の五月は江戸にもない～ニシンの繁栄が息づく町～
②荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～
③カムイとともに生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～
④本邦国策を北海道に観よ！～北の産業革命「炭鉄港」～
⑤「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～
⑥北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽～「民の力」で創られ蘇った北の商都～【候補地域】

①江差の五月は江戸にもない ～ニシンの繁栄が息づく町～

江差町観光まちづくり協議会

ストーリー

江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りには、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられています。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえます。

この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とニシン加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでありました。

ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く息づいています。

■主な構成文化財

かもめ島、姥神大神宮、江差追分、江差の町並み、姥神大神宮御渡祭

▶江差の町並み

◀姥神大神宮渡御祭

地域活性化に向けて

ニシン漁と交易で繁栄した江差には、これまでにたくさんの有形無形の文化財が保存・伝承されてきており、その中でも北海道遺産にも認定されている「姥神大神宮渡御祭」や「江差追分」などの構成文化財のそれぞれが地域住民の「普通に日常にある」ものであり、これらを後世に保存伝承していくこと、そして全国各地の大勢の「江差ファン」を大切に、これからも多くの方々が江差町に興味を持ち、お越しいただけるように、歴史ある文化を保存・伝承・活用していくことが必要です。

認定ストーリーをより分かりやすく、伝わりやすくするための工夫などを行い、それぞれが持つ特色ある伝統文化の賑わいを通じて、江差町を訪れた方々に「江差の五月は江戸にもない」を体感していただけるよう、関係機関や団体と連携して地域経済の活性化や観光地としての魅力ある地域づくりに取り組んでいき、「江差ファン」として関係人口の創出を図っていきます。

▲ニシン漬け

②荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

石狩市・小樽市・函館市・松前町

ストーリー

日本海沿岸や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通ずる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を超え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られたた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

■主な構成文化財

日和山、旧北浜地区倉庫群、旧魁陽亭、沖口役所跡、松前屏風、松本家土蔵及び松本家資料、福山城下町遺跡、龍雲院

◀ジオラマ「北前船とニシン漁場」

▶高田屋嘉兵衛像

地域活性化に向けて

番屋や商店として使われていた建物を資料館として活用しているほか、構成文化財が多く集まる本町地区では、「いしかりガイドボランティア」による見学ツアーを開催しています。【石狩市】

「北前船子どもフェリー使節団」を企画し、小樽市の小学生が北陸の北前船寄港地をフェリーで訪問し、郷土学習や地域住民との交流を行ないました。また、小樽市内の構成文化財を活用したショップでは北前船にちなんだ商品や地元産品の販売や情報発信を行っています。【小樽市】

「箱館」のまちづくりに積極的に投資した高田屋嘉兵衛の功績を伝える副読本を作成し、市内の小学校 3年生向けに配布しました。また、ストーリーを構成する文化財を紹介するとともに、北前船によって各地へと運ばれていたとされる、食材のPRを行っています。【函館市】

認知度向上のため、町外構成団体（東北地方等）への構成文化財の貸出や相互での巡回パネル展の開催、地域での講演会等を実施し、周知を図っています。また、関係団体と連携しながら、SNS等による情報発信の拡充を図っています。【松前町】

③カムイと共に生きる上川アイヌ ～大雪山のふところに～

大雪山麓上川アイヌ日本遺産推進協議会

ストーリー

美しく厳しい大雪山のふところに、カムイ～神～を見出し共に生きた〝上川アイヌ〟。

彼らは激流迸る奇岩の渓谷に魔神と英雄神の戦いの伝説を残し、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地には、クマ笹で葺かれた家などによりコタンを形成し祈りを捧げ続けます。上川アイヌは「川は山へ溯る生き物」と考え、最上流の大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミンタラ～神々の遊ぶ庭～として崇拝してきた。神々と共に生き、伝承してきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。

■主な構成文化財

大雪山、川村カ子トアイヌ記念館、神居古潭、嵐山

◀アイヌ古式舞踊

▶大雪山 カムイミンタラ

地域活性化に向けて

上川アイヌを「知る」「見る」「触れる」「訪れる」機会を創出することを軸に据え、認知度のさらなる向上を目的とし、この地域に幾度となく訪れたいと思うエリアとして魅力向上に取組んでいます。日本遺産のストーリーを体感できる旅行商品の開発、販売促進、認知促進、リピーター獲得への行動を展開しています。幅広い層を対象としたアイヌ文化等を認知できるプロモーションにより、各自治体が展開する本圏域の魅力発信及び、周遊促進を目指し、により、圏域外からの集客により地域活性化を図っています。

大雪山麓上川アイヌのポータルサイトをはじめ、圏域内外へのプロモーション活動、日本遺産ポータルサイトを活用したプロのライターによる本圏域の魅力発信による日本遺産ブランドの普及、情報発信を推進すると共に、各種補助事業の活用を模索しながら効果的な取り組みを検討しています。

④本邦国策を北海道に観よ！ ～北の産業革命「炭鉄港」～

炭鉄港推進協議会

ストーリー

明治初期に新たに命名された「北海道」は昭和の高度成長期までの百年の間に人口が百倍となる急成長を遂げました。この成長の中核となったのが石炭産業であり、空知の「炭鉱」、室蘭の「鉄鋼」、小樽の「港湾」、それらを繋ぐ「鉄道」を舞台に繰り広げられた歴史が北の産業革命「炭鉄港」の物語です。

約百キロ圏内に位置し、近代北海道を築く基となったこの三都（空知、室蘭、小樽）を原動力として、大きく発展を遂げた北海道。炭鉱遺産や工場景観、港湾や鉄道施設などが今もなお、歴史をたどる文化財や遺産として存在し、訪れる人に北海道のまだ見ぬ魅力を語っています。

■主な構成文化財

住友赤平炭鉱杭櫓・周辺施設、旧手宮鉄道施設、室蘭市旧室蘭駅舎

地域活性化に向けて

北海道近代化のストーリーである「炭鉄港」を次の世代に繋いでいくこと、その魅力を発信し、全国から様々な方々を呼び込むことを目的に、人材育成や交流人口の拡大に取り組んでいます。これまで「次代につなぐ」「地域で稼ぐ」をテーマに、小学生向けの学習教材の作成や、ガイドの養成、「炭鉄港カード」の配布、当時の産業や暮らしを知る人の言葉を後世に残す映像「炭鉄港の証言」の制作、日本遺産にまつわる食文化「炭鉄港めし」の調査、普及啓発など様々な事業に取組んできました。「炭鉄港めし」の取組では、セブンイレブンでの商品発売など民間企業と連携した普及啓発を実施するなど、「炭鉄港めし」の地域における定着、地域内外での認知度向上を推進しました。今後は、インバウンドの受入体制整備や、航空会社と連携した全国向けプロモーションなど、更なる交流人口の拡大を目指すとともに、地域の歴史や文化に住民が誇りと愛着を持ち、積極的に発信したくなる遺産として住民理解を深める取組を推進していきます。

▶「炭鉄港めし」カレーそば

⑤「鮭の聖地」の物語 ～根室海峡一万年の道程～

鮭の聖地メナシネットワーク協議会

ストーリー

北海道最東の海、根室海峡。この地では、遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海を往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。

■主な構成文化財

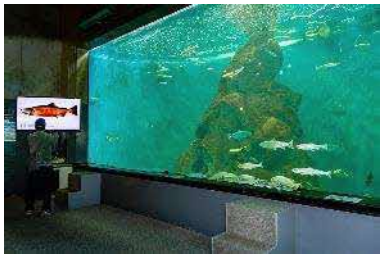
野付半島、松法川北岸遺跡出土品、標津遺跡群伊茶仁カリカリウス遺跡、根室半島チャシ跡群

▲西別鮭山漬けの寒風干し

地域活性化に向けて

認定地域である根室海峡沿岸の4市町、標津町・根室市・別海町・羅臼町の全体を屋根のない博物館に見立て、認定ストーリーをテーマとするエコミュージアム化を進めています。具体的には標津サーモン科学館にストーリー全体を紹介する鮭の聖地エキシビジョンルームを整備し、各市町の博物館系施設をサテライト拠点として整備しました。ストーリーを紹介する動画やパンフレット等を作成するなど、鮭の聖地を象徴する12のエピソードと、それにまつわる関連文化財群をめぐる情報発信を行っています。

また、認定ストーリーをベースに、地域生産品に焦点をあてたサブストーリーを作成し、生産品を通じたストーリーブランディングを進めているところです。



▲標津サーモン科学館

【候補地域】

⑥北海道の「心臓」と呼ばれたまち・小樽 ～「民の力」で創られ蘇った北の商都～

小樽市

ストーリー

小説家・小林多喜二は小樽のまちを北海道の「心臓」と表現しました。明治中期以降、豊富な北海道の資源の物流拠点となった小樽は、「北日本随一の商都」として、「民の力」でまちをつくりあげましたが、石炭から石油へのエネルギー転換により、高度経済成長期に衰退しました。荒廃した運河を埋め立てて道路を建設する都市計画が決定しましたが、取り壊される倉庫を見た市民が「まちの記憶」を守るため運河保存運動を始めます。10年にもわたる運動の結果、運河の一部を散策路として整備し、観光都市・小樽の礎となりました。歴史をいかす新たな展望を示した運動は、日本のまちづくり運動の先駆けとなり、小樽に生きる人々が、遺産に新たな命を吹き込み、もう一度『心臓』を動かすことで、今もその鼓動を感じとることができるのです。

■主な構成文化財

小樽運河、小樽運河を守る会関係資料、色内銀行街、旧手宮鉄道施設、旧日本郵船株式会社小樽支店及び附属倉庫群

地域活性化に向けて

小樽運河百年を記念して、20～30代を中心にした実行委員会がロングランイベントとして、運河沿いのナイトマーケットなどの景色とグルメを楽しむナイトタイムエコノミーの創出や、重要文化財に指定されている「旧三井銀行小樽支店」を会場とした「重要文化財パーティー」など高付加価値化を追求した5つの企画を開催しました。

また、小樽市日本遺産地域プロデューサーの育成ワークショップを行うことで潜在していた人材やスキルの掘起しを行っています。各プロデューサーが着地型旅行商品の造成や日本遺産周遊アプリの開発、体験型商品「おたるハート缶」の開発、インスタグラムなどのSNSでの積極的な情報発信などそれぞれの得意分野をいかした活動を行っていることは人材育成の大きな成果であり、地域のブランド化へ繋がっています。

▼小樽運河100年記念

 本記事の内容は、総合政策部地域創生局地域政策課で担当しております。
〇事業に関するお問い合わせ先　TEL:011-204-5800